

特別支援教育の充実について

県教育委員会は、平成24年9月に「長野県特別支援教育推進計画」を策定しました。

この計画そのものは、大変重要な計画であると考えます。しかし、私が第1に感じたことは、こうした計画を策定する時期が遅いのではないかということです。

と言いますのも、学校教育法が一部改正されて、従来の「特殊学級」から「特別支援学級」への転換や、小・中学校等における特別支援教育の推進が明確に規定されたのは、平成19年4月です。それから5年以上経過して、ようやく県の特別支援教育推進計画が策定されるというのは、いささかスピード感に欠けるものと考えます。

他県の取組状況等も踏まえ、国の方針が転換して、5年以上経過した後に「長野県特別支援教育推進計画」が策定されたことについて、遅くはなかったのか、また、なぜこのように時間がかかったのかについて、どのようにお考えなのか、伊藤教育長にお尋ねいたします。

次にこの計画では、「通常の学級における特別支援教育の充実」の「現状と課題」の項目では、「平成22年度に特別支援教育連携協議会が行った調査では、長野県の公立小・中学校の、通常の学級に在籍している児童生徒で、診断等の有無にかかわらず、発達障害等による困難さがあると考えられ、特別な支援が必要な児童生徒は6268人(全体比3.4%)在籍している状況にあります。」とされています。

このような「現状と課題」に対して、「推進の方向及び計画」では、「通常の学級において、発達障害等のある児童生徒も含めて、すべての児童生徒にとって、分かる授業の実践ができるよう、授業のユニバーサルデザイン化の実践を促進する」としています。

「授業のユニバーサルデザイン化」というと、何か聞き心地の良い言葉のように感じますが、現実的にこのようなことを実践できるとお考えなのでしょうか。

具体的にこのような「授業のユニバーサルデザイン化」を実践することで、「特別な支援が必要な児童生徒」のうち、どれくらいの児童生徒たちが、通常の学級で授業を受けて理解していけると考えているのか、教育長にお尋ねいたします。

また、平成22年度には、通常の学級に在籍している児童生徒で、特別な支援が必要な児童生徒は6268人(全体比3.4%)となっていますが、その後は、特別な支援が必要な児童生徒は、どれくらいの数、割合になっているのか、お尋ねいたします。

次に、「通級による指導」に関して質問いたします。

通級による指導は、特別支援学級とは別に、小・中学校の通常の学級に在籍している障害のある児童生徒に対して、ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、「通級指導教室」等の特別の指導の場において、障害に応じた特別の指導を行うものです。

「長野県特別支援教育推進計画」では、「学習障害・注意欠陥多動性障害等の通級指導教室は、平成24年度現在、県下に10教室開設されていますが、通級による指導が必要な児童生徒数に対して不足している現状にあります。」としています。

これに対して、「推進の方向及び計画」では、平成29年度までに「通級指導教室の拡充」するとしていますが、平成26年度現在、「通級指導教室」は県下にいくつ開設されているのでしょうか。

また、「通級による指導が必要な児童生徒数」から考えた場合、「通級指導教室」は、どれくらい必要であり、その必要数は、平成29年度までに開設することが可能なのか、それぞれ教育長にお尋ねいたします。

阿部知事は、本定例会の提案説明において、「教育再生につきましては、これまで、中学校までの30人規模学級の拡大、『信州型コミュニティスクール』の実施、不登校や発達障がいの子どもの児童生徒への教育支援の充実などを進めてまいりました。今後、教育や人づくりに、これまで以上に力を注ぎ、自他共に認める『教育県長野』の復活を目指し、教育委員会とも十分に連携して施策を進めてまいります。」と述べています。

本県の特別支援教育の充実につきましては、これまでも取り組んでこられてきたとは思いますが、まだまだ十分ではない面があると思います。

阿部知事自身、本県の特別支援教育の現状と課題をどのように認識されているのかお尋ねいたします。

そして、2期目の知事の県政運営の中で、特別支援教育の充実の分野において、具体的にどのような取組を行うお考えなのか、お尋ねいたします。

《再質問》

本県における特別支援教育の充実を図るために、阿部知事や県教委はこれまでも様々な取組を行ってきたことにつきましては、私も敬意を表するものでございます。

しかし、他の都道府県と比較した場合、まだまだ不十分な面があると感じざるを得ません。

特別支援教育の充実を図る上で重要なことは、その施策の内容はもとよりですが、是非、スピード感のある施策の実施を行っていくことだと考えます。

教育長は、特別支援教育の充実を図る上で、スピード感のある施策の実施の重要性について、どのようにお考えなのか、改めてお尋ねいたします。